

# 『広島法科大学院論集』の創刊の辞

広島大学大学院法科大学院（法務研究科）の発足からすでに1年が経過しようとしています。法科大学院の発足に至るまでには、広島弁護士会、広島商工会議所をはじめとして設立期成同盟会のメンバーになっていただいた多くの機関・団体からご支援を頂戴し、また、広島大学の関係者とりわけ法学部、社会科学研究科の教職員の方々のからは文字通り物心両面から多大なご協力をいただきました。ここにあらためて御礼を申し上げます。

法科大学院の第一の使命は、法曹養成です。現在、広島大学法科大学院では、教員・職員が手を携えて、より充実した教育の実現をめざして日々努力を続けております。他方で、法科大学院の理想は、理論と実務との架橋です。理論の裏づけのない実務は空虚であり、また、実務の裏付けのない理論は無益です。このような理念を実現する場として、我々は法科大学院としての紀要を創刊することにいたしました。その名称は「広島法科大学院論集」として、当面、年1回の刊行を予定しております。

この創刊号では、研究者教員と実務家教員双方の論文を掲載することができました。まさに、この紀要は理論と実務の架橋を実践する場となっているものと自負しております。

我々は、この紀要を通して、広島大学法科大学院がわが国の法理論と実務の発展に寄与できることを願っております。読者の皆様のご指導、ご助言をお願い申し上げます。

平成17年2月18日

広島大学大学院法務研究科長 田邊 誠